

＜令和４年度 研究事業報告＞

たしかなつながりを ～「確かな学び」の実現を図るために～

教育センターでは、９名の研究員が３つの部会に分かれ、各学校の教育活動に役立つ基礎的・実践的な研究を行いました。

【研究主題】

すべての学びの質を高める授業の構築
～すべての子どもの主体性を引き出す指導の展開～（２／３年次）

【研究内容】（個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点から）

１ねらいに直結する学習活動の設定　２ねらいを踏まえた学習課題の提示　３指導と評価の一体化
４子どもの実態に応じた重点的な指導　５多様な他者と協働する場面の設定

１ 外国語教育部会

(1) 研究成果

- コミュニケーションの目的・場面・状況を、子どもに関わりのあるものに設定したことで、英語を使う必然性を持たせ、課題解決に向けて意欲を持たせることができた。（内容２）
- 子どもの学びの姿の実態を把握するためには、単元を通した学びの道筋を明確にすることが大切であることから、指導と評価の一体化をより一層充実させる必要がある。（内容３・４）

(2) 担当研究員（３名）

２ 算数・数学科教育部会

(1) 研究成果

- 予想される子どもの誤答やつまずきを想起し、それに基づく教師の働きかけを明確にすることにより子どもの思考に応じた重点的な指導が展開できた。（内容４）
- 振り返りの場面において、子どもの学びから見出した視点を提示することで、次の学習への見通しにつなげていく必要がある。（内容１・３）

(2) 担当研究員（３名）

３ ＩＣＴ教育部会

(1) 研究成果

- 学習用端末を活用し、個別と協働の活動を往還する場面を充実させることで、子どもが他のグループの考えから新たな見方に気付く姿が多く見られた。（内容１・５）
- 学習用端末を日常的に活用することで、授業での端末操作に係る指導時間を段階的に減らすとともに子どもの端末操作のスキルは、各教科等の目標や学習内容を考慮し、その有用性を実感させながら身に付けさせる必要がある。（内容１・２）

(2) 担当研究員（３名）

詳細につきましては、南北海道教育センター研究事業

（アドレス <https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2022021600241/>）

を御覧ください。